

# News Letter

第27回国際労働衛生会議(ICOH) 本年2月 ブラジル/イグアスにて開催

## “失業と健康”に関する4シンポジウム 社会的援護を！ 将来の方向づけを検討

国際労働衛生会議は本年2月23-28日の6日間、ブラジルのイグアスにて開催された。イグアスは世界三大瀑布の一つで名高い国立公園に接するリゾート地。季節は夏、気温は40℃近くになる日もあった。

その中で「失業と健康」に関するシンポジウムが4題あった。テーマは「失業と健康」「南アメリカにおける失業と健康」「転職者への支援：将来の労働市場への挑戦」および失業と健康委員会・労働と社会心理委員会・労働と心疾患委員会の合同シンポジウムが「仕事と社会心理因子：何がわかっているか、今後の方向は？」としてもたれた。

合同シンポジウムでは社会心理学的労働環境と健康について心理学、循環器疾患、失業と健康という3つの立場から概観。社会心理学的疫学面からは健康増進とリハビリ、予防に努力する。またストレス対処法を個人と企業に行うことは心疾患予防に寄与する。失業と健康では、就労-失業の変移は避けがたい出来事なので、いかに失業期間を短縮するかが問題。また失業者の健康保持に倒産企業へのカウンセリングを行うなどの持続する雇用へ向かって社会的援護“social convoy”が必要であると論じた。

なお、同会議にて世話人グループが改組された。新メンバーはつぎの11名である。

Prof. Thomas KIESELBACH (Germany)-*Chairman*

Dr. Simo MANNILA (Finland)-*Secretary*

Prof. Ralph CATALANO (USA); Prof. Bjorgulf CLAUSSEN (Norway); Asso.Prof. Peer CREED (Australia);

Dr. Yucel DEMIRAL (Turkey); Dr. David FRYER (Scotland); Prof. Anne HAMMARSTROM (Sweden);

Prof. Tsuentaka MATOBA (Japan); Dr. Hugo WESTERLUND (Sweden); Prof. Tony WINEFIELD (Australia)

### 最近のニュースから

#### 第2回 Expert Conference of Unemployment and Health

来年9月にブレーメン（ドイツ）にて開催予定

‘01年12月、オーストラリアで開催された第1回 Expert Conference に続いて、第2回会議が04年9月23～25日にドイツのブレーメンにて開催

される。そのプログラムの準備が Steering Group によって進行中である。今後の情報を希望される方は、事務局へ e-mail address を知らせてください。♠

## 第6回失業と健康研究会レポート

## 特別講演：「産業保健を取り巻く課題」

## 労働環境の改善点は多岐！ 過重労働と心の健康問題が最重要

第6回研究会では特別講演として酒井 淳氏（福岡産業保健推進センター所長）が産業保健の今日的課題を多岐にわたって論じた。作業関連疾患とくに過重労働（残業、時間外労働）による健康障害とメンタルヘルス問題が大きな課題である。講演後、活発な質疑応答があった。

脳血管疾患および虚血性心疾患などの認定要件が改正されて、発症前の6ヶ月という長期間における著しい疲労の蓄積をもたらす過重労働があったことが大きな要件に加わった。それに連動して過重労働対策と規制が強化された。

循環系疾患では生活習慣が大きく関与するので、「死の四重奏」保有者への二次健康診断の費用が給付される制度があるが、利用しにくい制度なので運用改善が検討されているという。

メンタルヘルスの問題では自殺者数が現在3100名余に増加している。とくに45～60歳男性の自殺者が急増した。原因は健康問題、経済生活問題、家庭問題の順に多かった。自殺者の40%が勤労者で

あり、経済生活問題と勤務問題（職場の人間関係）が動機になっていた。自殺を図り救命された者はうつ病など精神疾患者が4分の3を占めていた。この問題は過重労働問題と連動している。

過重労働による健康管理対策では、残業が月100時間は1日の睡眠時間が5時間以内であることを示す。労働者や事業者への産業医の面談や助言指導が唱われているが、行政機関による監督と法的措置を設定強化することが重要である。

事例報告では重本 亨氏（久留米大学大学院生）が失業者の睡眠障害とうつ症状との関係を報告した。調査項目はうつ症状9項目、睡眠障害の項目は5項目であった。失業者では早朝覚醒と入眠障害が有意に多かったが、疲れやすい、動悸、体重減少は在職者の方が多かった。いろいろな要因が絡んでいるので単純には解釈出来ないが、とくに心と身との相関性についてのさらなる解析が重要にみえた。失業者のうつ症状がどの程度の病態なのか、事例ごとの詳細な分析が、今後なお必要である。

◆ 次回の第7回研究会は、**10月25日（土曜日）** 14:00—17:00 です。

\* 予定プログラムは

講演：「失業と健康に関する研究の動向」 石竹達也（久留米大学教授）

報告：「失業とみなした定年退職者の心理」 三橋睦子

（久留米大学医学部看護学科助教授）

ほか、です。

\* 会場は久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

ぜひ、ご参加ください。

◆ 本誌 “News Letter” を入用の方は、お知らせ下さい。

お知らせ

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

〔事務局〕 福岡県久留米市宮の陣1丁目1-70（〒839-0801） 宮の陣病院気付

仕事ストレス コーピング研究所内 “失業と健康” 研究会事務局

Fax: 0942(33)8862 Tel: 0942(32)1808 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp